Event

@特集@

今からできる英語イベントのすすめ

スキット・紙芝居・カルタetc.で授業を活性化

肥沼則明
Koinuma Noriaki

週3時間授業の中でのイベント学習

かつて中学校の英語の授業が週4時間確保できた時代は，いろいろなイベント学習が行われ，研修会等でも多くの実践発表があった。しかし，最近はそうしたイベント学習はあまり話題に上らなくなった。その最大の理由は，それらが授業時数の削減によって真っ先に切り捨てられた部分で，発表する価値があまりないと見なされているからではないだろうか。しかし，一方で少ない授業時数の中でイベント学習を年間指導計画に位置づけ，実践し続けている教師もいる。そのような教師の主張は，おおむね次のようにまとめられる。

○少ない授業時数の中で生徒に力をつけさせるには，以前にもまして英語に対する学習意欲を高める必要があり，イベント学習はそれに対して効果的である。

○教科書の隅々まで教え込まなければ生徒の力がつかないと思うのは教師の妄想である。教科書を扱う時間を精選し，より発展的な活動を行う方が結果的に生徒の力が高まる。

実際，イベント学習を重視する教師の指導を受けた生徒たちは，県や全国レベルの実力テストでも成績が非常によいという報告がある。もちろん，イベント学習だけが生徒の力の高まりを支えているわけではないが，少なくともイベント学習がマイナスに作用しているわけではないと言える。

それでも「やる余裕がない」という教師も少なくないであろう。しかし，かつてイベント学習を指導に取り入れていた経験のある方には，生徒と共有したあの楽しい時間を思い出していただきたい。また，イベント学習未経験の方には，教科書べったりの授業の殻を破ってほしい。生徒はイベント学習をとおして大きく成長するはずである。

イベント学習の実施時期

イベント学習には単位時間で終了するものもあれば，ある程度まとまった時間を費やすプロジェクト的なものもある。ここでは後者を扱うこととし，実施時期を学習の切り口に分けて提案する。

① レッスン（ユニット）後

教科書のレッスン（ユニット）の題材に合わせた発展的な活動を行うのに最も好都合である。そのレッスンのまとめの意味もあるので，途中に入れ込むよりよいであろう。

② 学期末テスト後

多くの公立中学校では各学期の期末テスト後に1～2週間程度の長期休業前授業があるのではないだろうか。この時期は教科書を進めても生徒の気持ちは上の空であることが多いので，思い切って楽しいイベント学習を設定するとよい。

③ 長期休業直後

長期休業が明けたばかりの数日間は教師も生徒も授業のリズムがつかめない。そこで，教科書を使った学習に入る前に，何か楽しいイベント学習を入れて，ウォームアップするとよい。また，前学期の最後をイベント学習の準備に，新学期初めをその発表にという設定の仕方もある。

イベント学習の実践例

ここでは，筆者の実践例の中から，2～5時間程度で終了するイベント学習を3つ紹介する。

(1) スキット

スキットは生徒にドラマチックな表現方法を練習させる活動として大変よい活動である。暗唱発表から一歩進んだ活動をとおして，生徒により豊かな表現力を身につけさせたい。

指導過程としては以下の手順が考えられる。

① シナリオの作成

生徒にスキットを演じさせる活動には，シナリオの自由度によって次の3通りのものがある。

A）既製のシナリオをそのまま演じさせる

最も手軽に取り組めるのが，教科書本文の対話を演じさせるものである。実際の場面を思い浮かべさせ，主人公になったつもりで演じさせる。この活動の効果は，教科書本文が演技と共に脳裏に焼き付くことである。また，仲間の前で恥ずかしがらずに演技するということに慣れさせるものとしての効果もある。

B）既製のシナリオの一部を変える・追加する

与えられたものをそのまま演じるよりも，自分の創意工夫が生かせるものを演じる方が生徒は意欲的に取り組む。そこで，教科書本文を生かしつつも，一部を変更したり，新たな表現を追加させたりして生徒のオリジナリティーを発揮できるようにさせる。どの程度シナリオを変えさせるかは，生徒の学習段階やシナリオ作成に費やせる時間によって異なる。

C）オリジナルのシナリオを作らせる

生徒に自由にシナリオを創作させる活動は，生徒の発想の豊かさ，面白さが生きる活動である。取りかかりの条件としては，場面のみを与えてあとはすべて自由に考えさせる，使わせたい構文を必ず入れさせる，などがある。

ただ，シナリオ作成に時間がかかるので，十分な指導時間がとれる場合に限られる。これを読み誤ると，予想以上にシナリオ作成に時間を取られて練習時間がなくなったり，発表における達成感があまりない活動になってしまったりするので注意が必要である。

② 練習

どのような活動にも共通することであるが，活動の達成感を最も大きく左右するのが練習である。達成目標をどこに置くかでその内容と濃さは変わるが，総じて練習が十分できなかった時のスキット発表は生徒の達成感が低いように感じられる。したがって，十分な練習の機会を確保することが重要である。ただ，時間さえ確保すればそれでいいかと言えば，それだけでは不十分である。生徒に何を期待しているのか，よい発表を行うためのポイントは何か等をしっかりと理解させた上で練習を行わせることが大切である。

③ 発表

スキットであるから，大抵はペアまたはグループの発表となるはずである。発表活動で大切なのは，発表者に，持っている力を十分に発揮できるよう真剣に発表させることである。そのためには，評価観点をあらかじめ明らかにしておくとよい。こうすると，生徒は何を重視して発表したらいいかを理解した上で発表に臨むようになる。

また，生徒に発表活動させる場合，必ずビデオで撮影することをお勧めする。記録が残るということで生徒の緊張感が高まるという利点もあるが，それ以上に事後指導の資料となるほか，下級生が同じ活動を行うときの達成目標として使えるからである。よい発表を編集して残し，それを活動の導入に使うと，生徒はどのレベルの活動を目指したら良いかを一目瞭然で理解できるのである。

一方，聴取者である残りの生徒の指導も大切である。よい聞き手がいるかどうかは発表のパフォーマンスレベルに大きな影響を与えるからである。自分の発表を真剣かつ楽しみに聞いてくれる仲間がいるという安心感がないと生徒の心は解放されない。心が解放されないと，力のこもった発表は出て来ない。学級経営とか授業経営という視点はここでは置いておくとして，技術的な対策としては，相互評価をさせるという方法がある。評価観点を与え，仲間の発表をそれにそって評価し，互いのよい点を学び合うという形を活動に仕掛けておくと，真剣に発表を視聴するようになる。

(2) 紙芝居

この活動は，朗読と演劇の中間にあたる活動である。演劇ほど身体を使って表現する活動を行う余裕はないが，単に音読をするだけではもったいないという題材のレッスンで実施するとよい。

紙芝居の絵は，教科書準拠のピクチャーカードを使うとよい。生徒にオリジナルの絵を描かせるというやり方もあるが，教科書の題材であれば，

絵を描かせる時間と労力をかけるのは無駄である。その分は練習に回した方がよい。

指導過程は次のとおりである。

① グループ分け

登場人物の数に合わせてクラスの生徒を小グループに分ける。

② 打合せ

グループ内で誰がどの登場人物を担当するかを決めさせる。また，シナリオに手を加えさせる場合はその時間も確保する。ただ，朗読に主眼を置いた本活動ではそれは最小限に抑えた方がよい。

③ 個人音読練習

もっとも大切な部分である。一人一人にその役になりきった音読の練習をさせる。

④ グループ音読練習

単に通して読み合わせさせるだけでなく，一度終了したら意見交換をさせるようにする。すると，生徒同士で改善意見がいろいろ出て，練習前は単に個人音読の連続であったものが１つのまとまったグループ作品へと変貌をとげる。

⑤ リハーサル

ピクチャーカードを使ったリハーサルを行う。本番でまごまごしないための大切な活動である。

⑥ 発表

グループ毎に発表させる。発表時の留意点は，(1)のスキットの場合とほぼ同様である。

(3) カルタ

これは，教科書に出てきた重要表現の内容を生徒の手で絵カルタにさせ，グループに分かれてカルタ取りをさせる活動である。実施時点までに学習した表現のうち，ぜひとも頭に入れておかせたいものを，小テストのような方法をとらずに楽しみながら習得させてしまおうという企画である。実施時期としては，ある程度の長さの休暇前後ならいつでもいいが，準備活動を冬休み前に行い，カルタ大会を冬休み明けに行うというのが指導上も文化的な側面からもよいであろう。

指導過程は次のとおりである。

① 重要表現一覧の作成と提示

重要表現（文）の数は生徒に作らせたいカルタの数に合わせるようにする。また，最後にグループでカルタ取りをさせるので，そのグループ数に合ったセットができるようにする。ちなみに，筆者の場合は，クラスの人数分の重要文を提示し，１人に２枚のカルタを描かせ，１クラス２セット×クラス数分のカルタを準備した。

② カルタ作成

授業時間を使って描かせるようにしているが，描き終わらなければ宿題としてもよい。準備と活動の間に長期休業を入れるのは，実はカルタ作成に時間的な余裕を与えるという意味もある。

③ 重要表現学習

カルタ大会はカルタを取ることが目的なのではなく，あくまでもその活動を動機付けとして重要表現を覚えてもらうことにある。したがって，重要表現を個人個人が頭に入れる練習活動を設定する必要がある。授業時間に少しずつ確認したり，長期休業をはさむのであればその間に十分練習できるような課題を出すようにするとよい。

④ カルタ大会

カルタがそろったところで，カルタ大会を開く。読み手は教師が行うのがいいであろう。ルールは普通のカルタ取りに準じたものでかまわないが，筆者の場合は，取っただけでは得点とはならず，そのカルタの英文を大きな声で読み上げなければ取得する権利が与えられないとしている。

⑤ カルタの評価

せっかく生徒が精魂込めて作成したカルタなので，英文の内容を上手に絵に表現できている優秀作品を生徒の投票で決めると面白い。各クラスの担任の許可をとって全作品を教室掲示し，クラス毎の優秀作品を選出して，学年掲示板に優秀作品集として再掲示してあげるとよい。

実践例の詳細紹介

以上が筆者がこれまで実施してきたイベント学習の内容と指導のポイントである。紙幅の関係で，活動の様子を紹介する写真や生徒の作品は割愛したが，それらは下記の拙ホームページで公開している。また，ここでは紹介しなかったイベント学習や他の学習指導についても紹介しているので，興味を持たれた方はご参照いただきたい。

Nory Koinuma's Junior High School English Teaching http://homepage3.nifty.com/koinuma

（筑波大学附属中学校教諭）